

## 令和2年度学生学修成果・学生生活満足度調査アンケート結果・総評

令和2年度の在学生に対する「学生学修成果・学生生活満足度調査アンケート」(学生満足度調査)は、昨年度アンケート書式(様式)を大幅に変更し今回2回目となります。

コロナ禍であるが学生満足度を高めることが大学の発展と教育の質保証に繋がることを再度教職員が認識するとともに、学生生活が有意義で満足するような取り組むことが肝要と思われれます。

文部科学省は「教育の質保証」(教育成果の担保)が重要であると提言しています。このことを鑑み、この満足度調査は P(計画) D(実施) C(評価) A(改善) サイクルによる教育効果の更なる深化を図るものです。そして、現在の本学における問題点をより明確にして改善を図ることでPDCAサイクルが機能(循環)している証であり、教育効果を測る上で数値化にすることで学生の満足度を解析しました。なお、今回は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため2回にわけて実施しました。

実施形式:無記名式アンケート

実施方法:3年生(対面)、2・1年生(ポータルサイト・オンライン)

実施期間:令和3年1月7日(金)~1月31日(月) 及び4月22日(金)~5月31日(火)

実施結果: 実施学生総数 337人、回答総数 275人、回収率は 81.60%

項目	1年	2年	3年	計
実施学生総数	125	112	100	337
回答人数	104	82	89	275
%	83.20	73.21	89.00	81.60

アンケートの回答数値: 5(満足)、4(やや満足)、3(どちらとも言えない)、  
2(やや不満)、1(不満)

### 総 評

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため令和2年度の授業は、春期オンライン授業で始まり秋期では概ね2か月間の対面授業とオンライン授業の併用であった。このような状況ではあったが、学生の満足度は3.19で昨年度よりも0.04アップした。このことは教職員の協力・協働の成果としての表れである。しかし、各項目では昨年度と比較し悪い数値となっている。また、自由記述では新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため大学が行った対応策(対策)関連等の記述が目立った。

令和3年度もコロナ禍であるが大学教育の改善に努め質の担保と今後の教育・研究効果に大いに期待したい。

**知識・能力・技術の項目別概要** 注( )内の数値は昨年度との差異(比較)

#### 社会人としての基礎的な能力

社会人としての基礎的な能力は2.92( $\Delta$ 0.59)で悪い結果であった。具体的には、「社会人のルールや人との約束を守る力」は2.76( $\Delta$ 1.04)である。一方、「課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力」は3.01( $\Delta$ 0.40)の落ち込みであった。

#### 知識・教養

知識・教養は2.31( $\Delta$ 0.39)であった。特に「異文化理解と多文化共生を進めるために必要な教養

と視野」は 2.89(△0.66)の落ち込みであった。

#### 外国語運用能力

外国語運用能力は 3.03(0.01)で唯一アップした項目であるが、今後英語及び中国語の実践的コミュニケーション能力の浸透が求められる。

#### アカデミアゼミと卒業研究・卒業論文（3年次以上のみ）

アカデミアゼミと卒業研究・卒業論文は 3.11(△0.53)と悪い結果であった。特に「研究方法は適切であった」の質問では 3.14(△0.89)であること今後指導教員の奮起を求めたい。

#### 教職課程（教職課程履修者のみ）

教職課程（教職課程履修者のみ）で項目別で最も悪い結果は「教員としての協調性とコミュニケーション能力」の 2.59(△0.98)である。早急に学生の満足度高めることに努めて欲しい。

#### 国際日本語コース（留学生のみ）

留学生の国際日本語コースの2項目は平均 2.98(△0.68)でコロナ禍の影響を最も受けているようである。しかも本学の特色である経済支援制度の満足度は必ずしも高い評価ではなかった 2.99(△0.24)のは残念である。

### 大学での学びや生活について

「入学前に期待してことが学習できた」 3.23(0.01)、「部活動など授業外の活動はやりやすかった」 3.24(0.16)、「食堂・売店は利用しやすかった」 3.11 (0.03) の満足度が高かった。しかし、全体の問いである「大学の学びや生活について」の数値は 3.11(△0.18)と低く、学生の自発的な活動と教職員の協力・協働による活性化が求められる

#### 1. 評価された項目

項	目	質問内容	令和2年度値	令和元年度値	差異
知識・能力・技術は身についたか	外国語運用能力	中国語による実践的コミュニケーション能力	2.98	2.93	0.05
大学での学びや生活について	部活動など授業外の活動はやりやすかった		3.24	3.08	0.16
	入学前に期待したことが学習できた		3.23	3.22	0.01
	食堂・売店は利用しやすかった		3.11	3.08	0.03

#### 2. 評価が低い項目

項	目	質 問 内 容	令和2 年度値	令和元 年度値	差異
社会人としての基礎的な能力	社会人としての基礎的な能力	社会人のルールや人との約束を守る力	2.76	3.80	△ 1.04
		相手の意見を丁寧に聴く力	2.81	3.72	△ 0.91
		意見の違いや立場の違いを理解する力	2.80	3.60	△ 0.80
		自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	2.85	3.55	△ 0.70
	知識・教養	異文化理解と多文化共生を進めるために必要な教養と視野	2.89	3.55	△ 0.66
	アカデミアゼミと卒業研究・卒業論文(3年次以上のみ)	研究方法は適切であった	3.14	4.03	△ 0.89
	教職課程(教職課程履修者のみ)	教科に関する必要な専門知識	2.52	3.52	△ 1.00
		学校教育に関する理解	2.62	3.62	△ 1.00
		教員としての協調性とコミュニケーション能力	2.59	3.65	△ 1.06
	国際日本語コース(留学生のみ)	日本語・日本文化の理解を通じて国際社会に貢献できる能力	3.02	3.63	△ 0.61
		実践的な日本語運用能力	2.94	3.68	△ 0.74
	大学での学びや生活について	図書館は利用しやすかった	2.87	3.75	△ 0.88

3. 今回のアンケートでは自由記述を以下の2点とした。

新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため、実施したオンライン授業に関する記述  
回答件数；88件

記 述 内 容	件 数
コロナ禍でのオンライン授業はやむをえない	35
自宅のパソコン環境が悪いので大変である	10

他、特記すべき記述内容は以下である。

- (ア) 教員間に ICT 知識の格差が大きい
- (イ) 当日講義に必要なレジメや資料(情報)を事前知らせて欲しい
- (ウ) オンライン講義でも教員は工夫した授業を望みます
- (エ) 出欠管理が厳しい教員と安易な教員の格差がある
- (オ) 電車やスクールバスの混雑を避けること(感染リスクの回避)ができた
- (カ) 大学のインターネット回線が弱く切れることが多い
- (キ) 5万円の学修支援(援助)金では十分なオンライン環境を整備できない
- (ク) 一人暮らしの学生への配慮(資料のコピー不可能)をして欲しい

#### 大学への意見、感想、後輩へのアドバイスに関する記述

回答件数 ; 100 件

記 述 内 容	件 数
施設・設備の更新・改善(トイレ、洗面所)について	14
ロッカー使用の可否周知について	14
食堂の価格とメニュー検討について	11
売店の商品価格と多種化(医薬品等)販売について	11
コロナ禍での生活費苦と学費納入苦(留学生)	11
学生への情報提供の迅速化と周知方法の改善について	10
職員及び教員の学生への対応(態度の)悪さについて	10

他、特記すべき記述内容は以下である。

- (ア) カリキュラムの充実
- (イ) スクールバス増便と運行時間の改善
- (ウ) Wi-fi 環境の充実
- (エ) 食堂(従事者)の清潔感と食品の衛生管理の欠如
- (オ) 教職課程の指導方法(中学校と高等学校に分けて指導を望みます)

以上